

再 評 価 書

箇所名	二級河川 安濃川・岩田川	事業名	広域河川改修事業	課 名	河川課
事業概要	工 期 (下段前回)*	H15年～ H44年	全体事業費	11,356百万円(負担率：国0.5：県0.5)	
		H15年～ H44年	(下段前回)*	11,356百万円(負担率：国0.5：県0.5)	
事 業 目 的 及 び 内 容					
<p>(事業の背景と目的)</p> <p>安濃川は、その源を津市芸濃町の山間部に発し津市安濃町を南東方向に流下し、津市小舟において穴倉川を合流して東に向きを変えた後、美濃屋川と合流して伊勢湾に注ぐ、流域面積 110.7km²、流路延長 23.9km の二級河川です。</p> <p>岩田川は、その源を津市片田薬王寺町地先の貯水池に発して東方向に流下し、野田浜垣内地先で三泗川を合流した後に南東へ流れを変え、津市街地を貫流して、伊勢湾に注ぐ、流域面積 32.6km²、流路延長 11.7km の二級河川です。また、三泗川は、藤堂高虎の治水事業により設けられたもので、洪水時に安濃川の水の一部を岩田川へ流し、津城下を洪水から守る仕組みになっています。</p> <p>主な被害として、昭和 49 年 7 月の集中豪雨と平成 16 年 9 月の台風 21 号で大規模な家屋浸水被害が発生しており、中でも平成 49 年 7 月の集中豪雨では、津市内で 4 万人を越える被災者、12,500 戸を越える家屋が浸水し、そのうち、安濃川・岩田川流域では、5,000 戸を越える家屋が浸水しました。</p> <p>本事業は、安濃川・岩田川沿川の浸水被害防止を目的として、河床掘削、護岸整備等の施工により河川改修を行い、流下能力を増大させ、治水安全度の向上を図ることを目的としています。</p>					
<p>(事業の内容)</p> <p>事業の内容は次の通りです。</p> <p>延長：(安濃川)1.1km、(岩田川)6.3km、(三泗川)1.1km</p> <p>①河道掘削 1,046,400 m³ ②築堤 222,600m³ ③護岸 3,364m ④道路橋 6 橋 ⑥用地買収 1 式</p>					
事 業 主 体 の 再 評 価 結 果					
<p>1 再評価を行った理由</p> <p>前回再評価後、一定期間が経過し、なお継続中であるため、三重県公共事業再評価実施要綱第 2 条 (3) に基づき、再評価を行いました。</p>					
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>① 平成 15 年度に河川整備計画を策定し事業着手</p> <p>② 平成 30 年度までに事業費ベースで 13% (工事費 16%、用地費 11%) が完成予定</p> <p>整備状況としては、岩田川で河口から五五六橋 (河口から 5.5 km) 付近までの護岸整備が概ね完了しています。</p> <p>現在、岩田川では五五六橋 (河口から 5.5 km) から泉橋 (河口から 5.9 km) までの護岸整備、安濃川では河道掘削工事を実施しています。</p> <p>③ 今後の見込み</p> <p>岩田川の整備完成後、三泗川から安濃川へと順次進めていきます。</p> <p>平成 44 年度の整備完了を目標としています。</p>					
<p>3 事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安濃川、岩田川は、津市の中心市街地を貫流しており、整備計画策定以降の河道改修により治水安全度は向上しつつあるものの、依然として治水事業の必要性は高い状況です。 ・水田地帯となっている中上流部に伊勢自動車道津インターチェンジや国道 23 号 (中勢バイパス) が建設され、中勢バイパス東側にあります「メッセ・ウィング三重」の隣に津市産業スポーツセンターサオリーナが H29.10 に開業されるなど、河川改修事業の必要性が向上しています。 ・大規模災害について市民の不安が高まっており、「津市・住民意識調査」(平成 24 年 2 月)において「災害に強いまちの推進」が最も重要度が高い評価となり、強い要望を受けております。 					

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析 (H17 治水経済調査マニュアル(案)により検討)

①前回評価時の費用対効果分析の結果

費用便益比(総便益/総費用) 全体事業 B/C=3,609.02億円/93.75億円 = 38.50

②費用対効果分析の結果

費用便益比(総便益/総費用) 全体事業 B/C=1,148.03億円/105.40億円 = 10.89
 残事業 B/C= 974.89億円/ 82.56億円 = 11.81

※総便益 B=総便益(現在価値化) + 残存価値(現在価値化)

※総費用 C=総費用(現在価値化) + 維持管理費(事業費の0.5%、現在価値化)

総便益・総費用の現在価値化にあたっては、社会的割引率によって算出するものとし、過去の費用については、デフレーター補正を併せて実施しています。

費用便益分析結果

(百万円)

区分		前回評価時 (H25年度)	今回評価時 (H30年度)		備考
		全体事業	全体事業	残事業	
費用	事業費	8,379	9,505	7,434	河川改修の事業費
	維持管理費	996	1,034	822	事業費の5%
	総事業費	9,375	10,540	8,256	
効果	年平均被害軽減期待額	21,444	6,074	5,772	
	便益	360,537	114,437	97,150	施設整備による浸水被害軽減効果
	残存価値	366	366	339	完成50年後の施設の残存価値
	総便益	360,902	114,803	97,489	便益+残存価値
費用便益分析結果 (B/C)		38.50	10.89	11.81	

【B/C変化の要因】

氾濫解析モデルを更新し、より詳細な地形を反映して精度向上を図った結果、浸水範囲が減少して便益が低下したため、B/Cが減少しました。

③感度分析の結果

残事業・残工期・資産額をそれぞれ±10%変動させた場合の感度分析を実施した結果、いずれの場合でも本事業の経済性が確認される結果となりました

	全体事業B/C	残事業B/C
残事業費 (+10% ~ -10%)	10.09 ~ 11.83	10.84 ~ 12.97
残工期 (-10% ~ +10%)	10.87 ~ 10.92	11.78 ~ 11.83
資産額 (-10% ~ +10%)	9.81 ~ 11.98	10.63 ~ 12.99

4-2 その他の効果

安濃川、岩田川は津市の中心市街地を貫流している河川であり、重要交通網である JR 紀勢本線、近鉄名古屋線、国道 23 号(中勢バイパス)、国道 163 号等が横断しています。浸水が発生するとこれら交通網に影響を与え交通途絶となれば、より深刻な被害が想定されますが、河川改修によりこれらを軽減することが可能となります。

4-3 地元意向

安濃川及び岩田川下流の市街地には、多数の人家や学校、病院、公共施設などが集積しています。このため、地元自治会連合会から、河川整備への強い要望があります。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

- ・河床掘削等による発生土を、築堤盛土に有効利用できるか検討し、建設副産物の発生抑制に努めます。
- ・護岸材料、工法を選定する際は、新技術等の情報収集を行い、コスト縮減に努めます。

5-2 代替案

「遊水地・調節池案」が「河川改修のみの案」や「ダム案」に比べ最も安く経済的です。

このことにより、安濃川河川整備基本方針では、「遊水地と河道改修を組み合わせた案」となっています。

このうち、当事業では河道改修を行うものであり、現在まで進めてきた改修とも整合していることから、現行の河道改修が妥当と考えます。

再評価の経緯

① 平成15年度に河川整備計画を策定

② 平成20年度に事業再評価を実施

③ 平成25年度に事業再評価を実施

平成25年度委員会意見 「事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承する。」

事業主体の対応方針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当されるため当事業を継続したいと考えています。